

**富士見台と神坂大檜**

「東濃署」当署が管轄する湯舟沢国有林は、中津川市の南東部、長野県との県境に位置する面積約二、六〇〇畝の国有林です。平成十七年に長野県から岐阜県中津川市に合併された際に当署の管轄区域となりました。この湯舟沢国有林には沢山の見所がありますが、その一つに「神



枝振りが見事な神坂大檜

坂大檜（みさかおおひ）」と呼ばれる一本の巨木があります。

「神坂大檜」は恵那山の北側、サワラやモミ、ツガなどの天然木に囲まれた、標高約一、三〇〇mの位置に立っており、胸高直径二・三m、樹高二五m、推定樹齢が千年を超えと言われるその立ち姿は、見る者を圧倒します。一九九七年に付知町の牧野義則氏が発見し、その大きさや枝振りの見事さが評価され、「森林の巨人たち百選」にも選定されました。

市の内外からも多くの観光客が訪れ、特に紅葉の時期には地元で開催される「東山道もみじまつり」からの見学ツアーが恒例行事となっています。

現在は地元住民による「神坂大檜保全協議会」が当署と協力して保護柵の設置や歩道の整備、樹木医による診断を行うなど、地元のシンボルとして大切に守ら

れています。

また、長野県との県境には神坂峠があります。湯舟沢国有林内には畿内から羽前・羽後の国へと続く東山道が通っており、神坂峠は東山道最大の難所として旅人に恐れられてきました。

この峠の歴史は古く、日本書紀に書かれたヤマトタケルの伝説にも登場し、万葉集には「ちはやぶる神の御坂に整まつり いはふいのちは母父がため」と旅の安全を祈った防人の歌が残っています。

中山道が発展するようになり、東山道は歴史の陰に埋もれていましたが、現在は恵那山や富士見台への登山道として利用されており、当時の面影そのままに登山者の歩く姿が見られます。



富士見台へと続く登山道



湯舟沢国有林にある風穴  
 (かつては蚕種の保冷にも使われていた)

◆アクセス

中央道中津川ICから国道一九号線を長野方面へ向かい、落合の交差点を右折して二十分程度で湯舟沢国有林へ到着。  
 さらに十五分程で神坂峠へ。